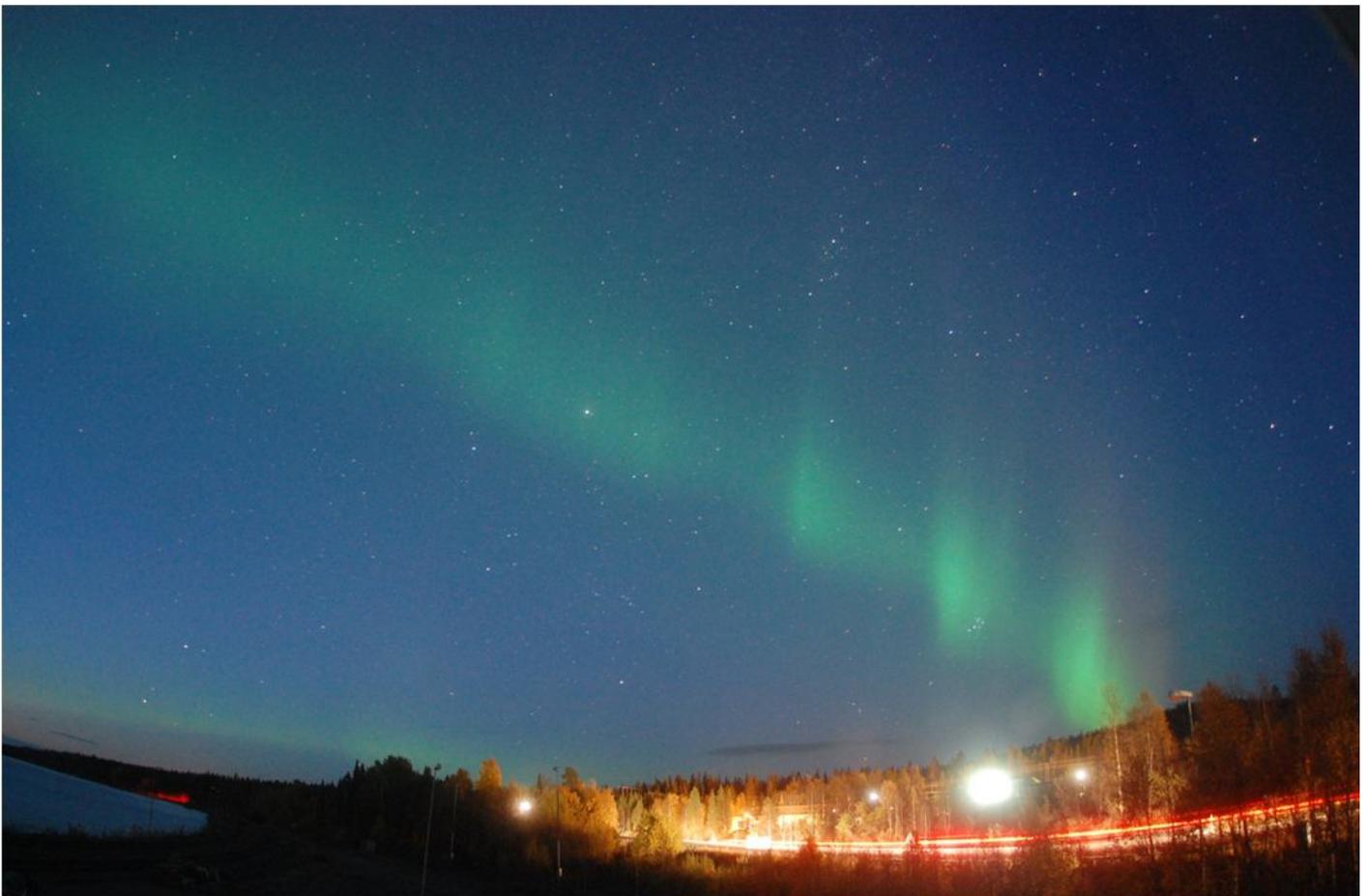


「秋のオーロラ」

スウェーデン北部の北極圏では、白夜が終わって秋になると、オーロラが見え始めます。私は何度も訪問しているのですが、残念ながら秋のオーロラはまだ見たことがありません。しかし、スウェーデン北部の村に友人と設置したデジタル一眼レフカメラを、日本から遠隔操作して、いつでもオーロラを撮影することができます。

カメラを設置してあるのは、スウェーデン北部、ノルボッテン州ヨックモック郡にある、Porjus (ポルユス) という小さな駅の駅舎です。ここの駅長さんとは友人で、いろいろ頼んで設置させてもらったのです。もう約 10 年間、オーロラの写真を撮影し、日本のサーバーに転送し続けています。そのカメラがこの秋もオーロラをとらえ始めました。



「この秋一番に出たオーロラ」

2014, -9, 21 Sweden Jokkmokk kommun Porjus Stationshuset

ポルユス駅舎に設置したカメラが自動的に撮影して、日本に転送してきた画像です。現地まで行くには、飛行機を最低 2 回乗り換えて、約 18 時間かかります。しかし、このカメラなら 1 分で画像が送られてきます。普段は自動的にインターバル撮影していますが、日本からカメラをコントロールして、さまざまな露出条件で撮影することも可能です。右側の赤い筋は、国道 45 号線の車、左の湖沿いに線路 (スウェーデン内陸鉄道) があります。オーロラの右上にペルセウス座、左下の五角形がぎょしゃ座です。

北極圏の秋は、まだ夜も短いので、オーロラの観望や撮影には不利な状況です。しかし、秋にしか見られないすばらしい光景もあります。一つは、湖がまだ凍っていないので、湖面に反映するオーロラを撮影できることです。もう一つは、紫色のオーロラが見られることです。日没後も上層大気に太陽光が残って、それがオーロラに影響を与えて紫色に光らせるのだそうです。



「上部が紫色に染まったオーロラ」

左端に見えるのは「プレアデス星団」です。このあたりは北緯 67° の北極圏で、日本とは星の見え方もちがいます。この写真は3月ですが、春も秋と同じ理屈で、上部が紫色のオーロラが出現します。

オーロラシーズンは、これから来年の4月上旬まで続きます。またすばらしいオーロラが出現したら、お伝えしようと思います。

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)